

## 流動性に係る経営の健全性の状況（連結・連結流動性カバレッジ比率に関する開示事項）

### 1. 時系列における連結流動性カバレッジ比率の変動に関する事項（第7条第2項第1号）

当社の平成29年3月期第4四半期の連結流動性カバレッジ比率は、分母のホールセール無担保資金調達に係る資金流出額が増加したことを要因に、平成29年3月期第3四半期と比較して17.2%下落しております。

（平成27年金融庁告示第7号、別紙様式第三号）

（単位：百万円、%、件）

項目	当第4四半期 (平成29年3月期 第4四半期)		当第3四半期 (平成29年3月期 第3四半期)		前年第4四半期 (平成28年3月期 第4四半期)		前年第3四半期 (平成28年3月期 第3四半期)	
<b>適格流動資産（1）</b>								
1 適格流動資産の合計額	2,107,116		2,107,032		2,329,415		2,257,925	
<b>資金流出額（2）</b>								
	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額
2 リテール無担保資金調達に係る資金流出額	6,075,799	509,679	6,043,692	507,603	5,964,948	505,221	5,952,558	504,268
3    うち、安定預金の額	1,399,400	41,982	1,383,240	41,497	1,304,786	39,143	1,300,694	39,021
4    うち、準安定預金の額	4,676,398	467,697	4,660,452	466,106	4,660,161	466,078	4,651,864	465,248
5 ホールセール無担保資金調達に係る資金流出額	2,060,079	996,904	1,947,306	911,714	1,985,118	942,250	1,794,762	816,927
6    うち、適格オペレーショナル預金の額	0	0	0	0	0	0	0	0
7    うち、適格オペレーショナル預金及び 負債性有価証券以外のホールセール無 担保資金調達に係る資金の額	1,663,946	600,771	1,642,164	606,572	1,641,417	598,549	1,520,684	542,849
8    うち、負債性有価証券の額	396,133	396,133	305,142	305,142	343,700	343,700	274,078	274,078
9 有担保資金調達等に係る資金流出額	/	0	/	0	/	0	/	0
10 デリバティブ取引等、資金調達プログラム 及び与信・流動性ファシリティに係る資金 流出額	559,232	51,998	557,407	51,438	545,051	49,058	539,427	44,125
11    うち、デリバティブ取引等に係る資金流出額	15,572	15,572	15,342	15,342	12,959	12,959	7,938	7,938
12    うち、資金調達プログラムに係る資金流出額	0	0	0	0	0	0	0	0
13    うち、与信・流動性ファシリティに係 る資金流出額	543,659	36,425	542,065	36,096	532,091	36,099	531,489	36,187
14 資金提供義務に基づく資金流出額等	86,185	70,889	86,309	69,914	101,783	90,198	112,353	105,133
15 偶発事象に係る資金流出額	298,752	8,488	331,818	9,491	312,605	8,839	343,093	9,783
16 資金流出合計額	/	1,637,960	/	1,550,162	/	1,595,568	/	1,480,236
<b>資金流入額（3）</b>								
	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額	資金流出率を 乗じる前の額	資金流出率を 乗じた後の額
17 有担保資金運用等に係る資金流入額	0	0	0	0	0	0	0	0
18 貸付金等の回収に係る資金流入額	579,506	391,548	536,894	380,991	560,803	419,243	526,805	382,975
19 その他資金流入額	48,121	23,969	92,421	57,745	63,311	21,008	53,221	31,350
20 資金流入合計額	627,627	415,517	629,316	438,737	624,114	440,252	580,026	414,324
<b>連結流動性カバレッジ比率（4）</b>								
21 算入可能適格流動資産の合計額	/	2,107,116	/	2,107,032	/	2,329,415	/	2,257,925
22 純資金流出額	/	1,222,442	/	1,111,425	/	1,155,315	/	1,065,912
23 連結流動性カバレッジ比率	/	172.3	/	189.5	/	201.6	/	211.8
24 平均値計算用データ数	/	61	/	3	/	3	/	3

### 2. 連結流動性カバレッジ比率の水準の評価に関する事項（第7条第2項第2号）

当社の連結流動性カバレッジ比率は、平成31年以降に求められる最低水準である100%を上回って推移しており、問題の無い水準にあると評価しております。また、今後も連結流動性カバレッジ比率は100%を上回る水準で推移することを見込んでおります。

### 3. 算入可能適格流動資産の合計額の内容に関する事項（第7条第2項第3号）

当社の平成29年3月期第4四半期の算入可能適格流動資産は、その90%以上を流動性が高いとされる日本国債、日本銀行預け金及び政府保証債等のレベル1資産で保有しており、平成29年3月期第3四半期と比較してその水準に変化はございません。

また、主要な通貨において、算入可能適格流動資産の合計額は純資金流出額を上回っており、問題はございません。

### 4. その他連結流動性カバレッジ比率に関する事項（第7条第2項第4号）

- (1) 「適格オペレーショナル預金に係る特例」の適用について  
当社は流動性カバレッジ比率告示第28条に定める「適格オペレーショナル預金に係る特例」を適用しておりません。
- (2) 「時価変動時所要追加担保額」の算出方法について  
当社は時価変動時所要担保追加額の算出方法について、流動性カバレッジ比率告示第36条に定める「簡便法」を適用しております。
- (3) 「その他偶発事象に係る資金流出額」について  
流動性カバレッジ比率告示第52条に定める「その他偶発事象に係る資金流出額」については、投資ファンド等からのキャピタル・コール等を計上対象としております。  
なお、「その他偶発事象に係る資金流出額」が「資金流出合計額」に占める割合は、平成29年3月期第4四半期において1%未満です。
- (4) 「その他契約に基づく資金流出額」について  
流動性カバレッジ比率告示第59条に定める「その他契約に基づく資金流出額」については、別段預金で受入れた歳入金の決済等を計上対象としております。  
なお、「その他契約に基づく資金流出額」が「資金流出合計額」に占める割合は、平成29年3月期第4四半期において3%です。
- (5) 「その他契約に基づく資金流入額」について  
流動性カバレッジ比率告示第72条に定める「その他契約に基づく資金流入額」については、流動性リスク管理上の重要性が高いと認められる取引等を計上対象としております。  
なお、「その他契約に基づく資金流入額」が「資金流入合計額」に占める割合は、平成29年3月期第4四半期において1%です。
- (6) データの使用について  
流動性カバレッジ比率の水準への影響が小さいと判断される小規模の連結子法人については、資金流出額及び資金流入額を簡便的な方法で計算することとしております。  
なお、連結子法人に係る資金流出額が資金流出合計額に占める割合は、平成29年3月期第4四半期において2%です。また、連結子法人に係る資金流入額については該当がございません。
- (7) 日次データを使用しない項目について  
流動性カバレッジ比率の水準への影響が小さい以下の項目については日次データに代えて最新の月末データを使用して流動性カバレッジ比率を計算することとしております。
  - ・デリバティブ取引に係る項目
  - ・海外支店取引に係る項目
  - ・その他重要性に乏しい項目なお、平成29年3月期第4四半期において、日次データを使用しない項目が「適格流動資産の合計額」に占める割合は1%未満、「資金流出合計額」に占める割合は1%、「資金流入合計額」に占める割合は1%未満です。

## 流動性に係る経営の健全性の状況（連結・連結流動性リスク管理に係る開示事項）

### 1. 流動性に係るリスク管理の方針及び手続の概要に関する事項（第7条第3項第1号）

#### ①流動性リスク管理の方針

当社グループでは、持株会社グループ共通の「リスク管理規程」を取締役会において制定し、流動性リスクを資金繰りリスクと市場流動性からなるリスクと明確に定めております。「リスク管理規程」において、流動性リスクは、リスクの顕在化が経営に多大な影響を与えることから、リスクに対する対応においては、十分な適切性と安定性を確保することを基本方針としております。

#### ②流動性リスク管理の手続の概要

流動性リスクの顕在化の未然防止及び影響極小化のため、流動性リスク管理の基本的事項を定めた「流動性リスク管理基準」を制定のうえ、リスク管理体制及びリスク管理手続を整備しております。

具体的には、「リスク管理規程」で定められた流動性リスク管理部署が、定期的にはリスクの状況等をモニタリングし、経営やグループALM委員会に対して報告する態勢としており、適時、是正又は改善措置を実施する等、適切な対応を図っております。

### 2. 流動性に係るリスク管理上の指標に関する事項（第7条第3項第2号）

#### ①内部管理上の流動性資産・指標等

当社グループにおいては、流動性のコントロールのため、日本国債等を流動性が高い資産として区分し、適切な量の確保に努めております。

また、預金と貸出金のギャップ、資金化可能な有価証券等の保有状況、邦貨及び外貨の市場性資金の資金流入・資金流出に係るギャップなどを指標化して、リスク顕在化の可能性と発生時の影響度を評価しております。

#### ②ストレス・テストの概要等

ストレス・テストの実施にあたっては、全通貨合算ベース及び外貨ベースで複数のストレスシナリオを設定し、資金流出の急増や流動資産の急減が発生した場合の、流動性カバレッジ比率への影響度と対応の要否を定期的に確認しております。

### 3. その他流動性に係るリスク管理に関する事項（第7条第3項第3号）

当社グループでは、上記の流動性リスク管理プロセス等を通じて、流動性リスクの抑制に努めております。

不測の事態に備え、「流動性リスク危機管理対策基準」を制定し、資金繰り状況が著しく悪化した場合の各種対応策をあらかじめ定め、リスクの顕在化と影響を最小限に抑制するための態勢を構築しております。